

主題	環境整備への取り組みから見えてきたものとは。		
副題	取り組みの中での意外な効果！！		
日常ケアの向上	人材育成	研究期間	11ヶ月

法人名	社会福祉法人 泉陽会		
事業所名	特別養護老人ホーム 光陽苑		
発表者： 吉越 海輝（よしこし うみき）	アドバイザー： 粟津 健		
共同研究者：粟澤 明美 田畠 大作 阿部 智祐			

電話	03-3923-5264	FAX	03-3923-5166
----	--------------	-----	--------------

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	社会福祉法人泉陽会が母体である光陽苑は平成3年4月に開設。特養60床・ショートステイ4床の他、デイサービス・居宅介護支援事業所・訪問介護を開設し、練馬区からの委託事業として地域包括支援センターも併設している。
------------------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

施設環境はご利用者のお住まいという点でも整備は欠かせないものである。特に築年数の古い施設は、施設環境の問題が大きくのしかかってくる。当施設でも、環境整備は課題の一つに常に挙がっていた。しかし、「古い施設だから…」や「構造上仕方がない…」といったあきらめの思いが強く、中々改善するまでには至っていなかった。そんな中、施設で行っている満足度調査や家族アンケートの中に「フロアの臭いが気になる」「床頭台が乱雑なことがある」「ベッド下に埃がたまっていることがある」等、単純に構造上の問題だけではない意見が多く挙がってきた。フロアを一目見て「綺麗だ」と思う人もいれば「汚い」と思う人もいる。美的感覚は人それぞれだが、それを統一していくなければいつまでも同じことの繰り返しになってしまふのではないかと考え、職員の意識改革も含めてまず出来る事から取り組みを始めていかなければならぬと考えた。

《2. 研究の目的ならびに仮説》

- ①計画的、定期的に行う事によって感染症の予防や蔓延防止に繋がっていく事が期待される。
- ②定期的に行う事でフロア内が常に清潔に保たれ、それによって他の箇所（今まで見過ごしていた箇所）にも目が行き届くようになる。
- ③習慣化する事によって、職員の環境整備に対する意識が変化し、環境整備以外（利用者の状態等）でも「気づき」の心が身につくと考えた。
- ④環境整備を行う事によって職員間で綺麗にしよう、整理整頓を心掛けよう、という意識が根付くことが期待される。
- ⑤毎日行うことによって、「気づき」の感性が養われることが期待できる。

《3. 具体的な取り組みの内容》

①取り組み期間・頻度

平成 26 年 11 月～毎日（現在も継続中）

②対応職員

介護士（夜勤明け者除く）・看護師

③必要物品

- ・次亜塩素酸入りのスプレー
- ・布（ベッド柵や床頭台を拭く）
- ・小箒（ベッド上や周りの埃を取る）
- ・ビニール手袋

④実施時間

- ・朝礼後（8 時 40 分頃）～9 時頃までの
20 分間

⑤取り組み手順

- (1) 各居室に入り窓を開けて換気を行う
- (2) 小箒を使用しベッド周りの髪の毛、
床頭台の埃の掃き掃除を行う
- (3) 次亜塩素酸を付けた布でベッド周り、
柵、床頭台を拭いていく。居室の入
り口の引き手や洗面台等も拭く
- (4) 廊下の手すりや電気のスイッチ等、
職員利用者が触れる所も消毒する

⑥確認と結果

- ・アンケートを実施（全職員対象）
- ・回収率 25 人／29 人
- ・環境整備により感染症のまん延は大幅に
減少した。

平成 26 年度 1 名のみ

・意識の変化について

- (1) 常に意識するようになった。
- (2) 職員全体で指摘し合い意識を高め
ている。
- (3) 朝の業務として習慣となった。

⑦改善

- ・定期的なアンケート（3 ヶ月に 1 回）を
実施し、フロア会議等でも議題として挙
げ（1 ヶ月に 1 回）、取り組みを行って
いる中の問題点を出し合い、それに向
けての「改善案」や「気づき」を出し合
う。それを、全職員に周知し実施に向け

て取り組んでいく。

《4. 取り組みの結果》

今回の取り組みに関しては、最初はフロア内
を清潔に保つ、整理整頓を行う、感染症等の
予防に繋がる、ということが目的としてあ
った。しかし、実際にになってみて、「気づき」
の心が職員一人一人に養われている事が分か
った。この心は、環境整備だけではなく利用
者一人一人の状態や心の気づきにも繋がって
いった点が、大きな成果であった。また、環
境整備を行っていく上で、計画、実行、点検、
改善のサイクルが出来上がり、環境整備以外
の仕事にも生かせる様になった。

《5. 考察、まとめ》

今回の取り組みの最初のきっかけは、ご家族
からの意見や要望であった。「フロアを綺麗に
する」というどこの施設でも取り組んでいる
事を真剣に、継続して行っていく事によって、
それに伴って様々な「気づき」の心が職員に
生まれた。この取り組みが、環境整備だけに
とどまらず利用者一人一人の生活の向上に繋
がっていける様に、今後も取り組んでいきたい。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご
家族）に口頭にて確認をし、本研究発表以外
では使用しないこと、それにより不利益を被
ることはないことを説明し、回答をもって同
意を得たこととした。

《7. 参考文献》

なし

《8. 提案と発信》

一つの取り組みを行う、という事は大きな力と
労力が必要である。今回「環境整備」という取
り組みを行った中で、それに伴い「気づき」の
心が養われた。一つの取り組みを実行し根付か
せるまでは努力が必要であるが、それが定着し
ていけば、様々な事が見えてきて改善していこ
うという意識に繋がる事が分かった。最初の一
歩を踏み出すことがとても重要である。